

### 3. 開 会 挨 拶

「第 12 回環日本海環境協力会議」  
環境省地球環境局長挨拶

会議の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

はじめに、我が国を代表して、この会議のために遠路ばるばるご参加いただいた、中国、モンゴル、韓国、ロシアの代表団の皆様、並びに、日本国内の各地からお集まりいただいた参加者の皆様に、心より歓迎いたします。

また、日頃から、北東アジア地域における環境協力の推進にご尽力いただいている、国連環境計画の代表の方々に対しまして、深く敬意を表します。

さらに、本会議の準備にご尽力いただきました方々、とりわけ、地元富山県、富山市の皆様に対しまして、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

北東アジア地域には、異なる言語、習慣、宗教を持つ多様な民族が暮らし、古来から社会的、文化的な多様性が育まれてきました。

また、経済面から見ても、当地域には、様々な発展段階にある国々が含まれております。

さらに、地理的に見ても、寒帯から亜熱帯までの広がりの中で、自然条件においても大きな多様性を有しております。

このような多様性のため、各国ごとに、優先度の高い環境問題は異なっておりますが、環境保全、そして、環境協力を促進しようとする意思は、本日の参加者すべてに共通のものであると信じております。

環日本海環境協力会議は、北東アジア地域における環境問題の解決に向けた情報交換と、国際的な協力・連携のあり方を、自由かつ率直に話し合う重要な機会として、1992年に我が国の新潟市で初めて開催され、本日ここに第12回を迎えることができました。

このことは、参加各国の環境保全、そして、環境協力に対する強い意思の表れではないでしょうか。

今回の会議は、「海洋環境の保全」、「循環型社会の形成」、「地方公共団体を中心とした北東アジア地域の環境協力」をテーマとして開催されます。

また、本日は、「黄砂を取り巻く各国の現状」と題したシンポジウムを開催致します。これまでと同様、率直かつ真摯な議論が交わされ、当地域における環境協力がさらに促進されることを期待いたします。

環境問題の多くは、私たち一人ひとりの生活にも起因しています。環境に優しい社会を構築していくためには、個人、事業者、地域社会、地方公共団体、国などのあらゆる主体が、それぞれの立場に応じた行動に参画することが求められています。

そして、こうした主体が、それぞれの取組みを進めるとともに、各主体の特徴と役割を發揮しながら、相互に連携することで、より大きな効果を生み出すことができます。

さらに、こうした連携を、国際的に広げていくことが、地球規模での持続可能な社会の実現に、一步ずつ近づいていくことにつながっていきます。

今回の会議における活発な議論が、北東アジア地域、さらには地球規模での環境問題の前進に、貢献できますことを祈念いたします。

ご静聴ありがとうございました。

二〇〇三年十一月二十四日

環境省地球環境局長 小島 敏郎

「第12回環日本海環境協力会議」  
富山県知事挨拶

立山連峰の新雪が美しく輝く季節を迎えておりますが、本日、環日本海地域各国の政府関係者、専門家をはじめ、多くの皆様のご出席のもと、「第十二回環日本海環境協力会議」を開催できますことは、誠に喜ばしい限りであり、心からお礼申し上げます。

また、国内外からご参加の皆様には、ようこそ富山県へお越しくございました。富山県民を代表して、心から歓迎申し上げます。

さて、地球温暖化や海洋汚染など深刻化する地球環境問題は、二十一世紀における人類共通の最重要課題であり、地域を越えたグローバル・パートナーシップのもとで、持続的発展が可能な社会の創造に向けた幅広い取組みが求められております。

特に、北東アジアの諸地域にとって、日本海を含む北西太平洋は、豊かな自然や漁業資源など数多くの恵みをもたらしてくれる貴重な財産であり、また、この地域では、古くから経済や文化の交流が積極的に行われてまいりました。私たちは、この海を「平和と発展の海」として、守り育てていかなければなりません。

このため、富山県では、県政目標を定めた総合計画として「富山県民新世紀計画」を策定し、この中に「環境立県」、「国際立県」を掲げ、環日本海地域の環境保全や環境協力に積極的に取り組んでおります。

こうした施策を推進するため、一九九八年には、内閣総理大臣認可の「財団法人環日本海環境協力センター（NPEC）」を設立し、その活動を支援するとともに、現在、韓国釜山市と共同設置されることになっている北西太平洋行動計画（NOWPAP）地域調整部の本県での早期開設に向けて、全力を尽くしているところであります。

こうしたなか開催されますこの会議では、公開シンポジウムや各国代表による基調講演等が行われ、海洋環境保全や国際環境協力など幅広い環境問題について討議がなされます。

二十一世紀はアジアの時代であるといわれておりますが、とりわけ、環日本海地域が大きく発展する時代であると思っております。

このたびの会議を契機として、環日本海地域における環境協力の輪がさらに大きく広がり、環境保全の取組みが一層進展することを願ってやみません。

また、国内外からお越しの皆様には、このたびのご来県を機に、美しく豊かな自然や新鮮な海の幸、山の幸など、富山県の秋の魅力を大いに実感していただければ誠に幸いに存じます。

おわりに、この会議が実り多いものとなりますよう祈念いたしますとともに、皆様方のますますのご健勝、ご活躍、ご多幸を心からお祈り申し上げまして、私の挨拶といたします。

二〇〇三年十一月二十四日

富山県知事 中 沖 豊

「第 12 回環日本海環境協力会議」  
富山市長挨拶

各国代表の皆様、私は富山市長の森でございます。

第 12 回環日本海環境協力会議の富山市開催にあたりまして、一言ごあいさつをさせていただきます。

皆様、ようこそ富山市へお越しくださいました。

環日本海環境協力会議は、中国、モンゴル、韓国、ロシア及び日本の 5 カ国が北東アジア地域の環境問題に関する情報交換及び政策対話を行なう場として、平成 4 年度の第 1 回会議以来毎年開催されているものであり、第 12 回目の会議が、ここ富山市で盛大に開催されますことを、富山市民を代表して心からご歓迎を申し上げます。

さて、地球温暖化、海洋汚染、オゾン層の破壊など地球規模での環境問題は、グローバル化した現代文明が直面している人類史上最も難しい問題のひとつであることから、安全で健康かつ快適な生活を営むことができる良好な環境を確保し、子孫に引き継いでいくことが人類共通の重要な課題であると考えております。

その解決のためには、各諸国、地域、団体が連携協力し、国際的な取組みを推進するとともに、各国それぞれの地域における取組みが重要であります。

そのことから、本市におきましては「環境基本条例」を制定するとともに、「環境にやさしい循環型のまちづくり」等を基本目標とした「環境基本計画」を策定したところであり、その推進にあたっては、市民・事業者・行政それぞれが、環境保全に対する理解を深め、家庭・地域・事業者等で環境にやさしい行動や取組みを進めているとことでもあります。

このような中で、本会議が本日から 3 日間、本市で開催されますことは、誠に意義深いものがあり、これまでの皆様方の研究や活動の成果を踏まえ、十分な議論を深められて実り多い会議となりますよう、ご期待しているところであります。

富山市は、現在、人口約 32 万人余りで 1600 年代初期からの積極的な産業政策により、富山売薬などの独自の産業や北前船による物流交流も盛んになり、近世城下町として発展し、市制施行後は、市民の努力と都市計画の施行、産業振興の取組みなどにより、商工業の発展と文化の香り高い近代都市として飛躍を続けております。

また、東に雄大な北アルプス立山連峰を仰ぎ、北は「海の幸の宝庫」富山湾に面する水と緑に恵まれた自然豊かな住み良い都市です。

さらに、姉妹友好都市との経済・文化・医療・農業等各分野での交流や国際人にふさわしい人材の育成、市民による草の根レベルでの国際交流活動の推進など、国際化時代に対応したまちづくりを進めています。

皆様方には、折角の機会でございますので、本市の美しい自然や旬の味等にも接していただければ、幸いに存じます。

最後になりましたが、本会議の開催にあたりまして、ご支援・ご協力をいただきました関係者の皆様に厚くお礼と感謝を申し上げますとともに、今後皆様方のますますのご活躍とご健勝を祈念いたしまして、地元富山市からのごあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。

二〇〇三年十一月二十四日

富山市長 森 雅 志